

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第213号 2007年4月6日

OCHADAI GAZETTE April, 2007



CONGRATULATIONS!

新しいお茶大、新しいお茶大生が、発進します

CONTENTS

TOPICS

学長メッセージ.....	1
21世紀型お茶の水女子大学.....	3
2007年度からスタートします	
研究プロジェクトの遂行	
国際教育.....	7
お茶大から世界へつなぐ教育と研究	
学生生活サポート.....	9
数多くの奨学金制度	
受賞者一覧(2006年度).....	11
お茶大グッズの新ライン.....	12

大学活動予告と報告

イベントカレンダー(2007年度).....	13
イベント予告(～2007年夏).....	14
大学院オープンキャンパス (4/21)	
Home Coming Day (5/31)	
平成18年度卒業式.....	15
メディア報道記録(2006年度).....	21



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

CONGRATULATIONS!



学長 郷 通子（ごう みちこ）

あいさつ

晴れてお茶大生となられたみなさん、
ご入学おめでとうございます。

女性として生涯を輝いて生きるための
学びの場は、共学の大学よりも女子大が
適しています。これは女子大での教育と
共学での教育・研究を通して得た私の体
験に基づく持論です。

本学の卒業生は国内はいうまでもな
く、世界の舞台で活躍しています。お茶
大生の仲間入り、そしてお茶大同窓生
ネットワークへの仲間入り、ようこそお
いでくださいました。新入生の皆さんを
心から歓迎します。



CONGRATULATIONS!

21世紀型お茶の水女子大学

2007年度からスタートします

お茶の水女子大学は、社会を創る女性を育成する場所です。

「国際性」「先進性」「学際性」

三位一体の大学院教育、始動

新名称は「人間文化創成科学研究科」。旧来の名称に「創成科学」の言葉が加わりました。

先進的な研究は、わたしたちの認識を塗り替え、学問の枠組みも変えていくはずで。本学が培ってきた領域横断的な大学院の組織を、さらに21世紀が求める知の探求の場所とするために、教員組織（「研究院」）と教育組織（「教育院」）を分け、また研究院を「基幹部門」と「先端融合部門」に分け、相互を自在に横断して、柔軟な指導体制と、新しい研究の発想力の強化を図ります。



「お茶の水女子大学論」「インターンシップ」「語学研修」

新たな科目の導入でさらなる飛躍をめざします

今年4月から新しい科目や講義がスタートします。

本学の歴史的背景と現代社会における位置を、卒業生による講演を通して学ぶ「お茶の水女子大学論」では、大学で学ぶべきことはなにかを考え、大学生生活の動機と方向を定めるきっかけをつくります。

また全学共通科目として「インターンシップ」を取り入れ、夏期休業期間内に行われる企業等のインターンシップ研修に参加した学生に単位を認定することとしました。

更に、これまでも実施していた「海外語学研修」を強化し、グローバル社会の最前線で活躍するために必要不可欠な語学能力の向上をはかります。

この新たな取り組みは2008年度から開始するリベラルアーツ教育の先駆けです。



21世紀型お茶の水女子大学

2007年度からスタートします

21世紀型お茶の水女子大学

研究プロジェクトの遂行

女性が進出する研究分野の開拓

いま時代は、女性研究者の活躍をつよく期待しています。本学の長い伝統と蓄積の上に、生活を科学する視点から新しい分野を開拓しています。

もう一度、大学へ行こう！

「主婦を研究の世界に呼び戻そう」プログラム

結婚・出産等を機に学問・研究の一線から退いた人たちのキャリアの再開を応援する再チャレンジプログラムです。3つの画期的な支援を用意しました。

- (1) 生活面（授業料の減免と、附属保育所「いずみナーサリー」による支援）
- (2) 学習・研究面（学習・研究指導員によるメンタープログラムの新設）
- (3) メンタル面（就学上や生活面のアドバイス）

多くの女性たちに勉学の機会を提供するために、本学の学生だけでなく、研究を再開する女性すべてを支援するための情報発信基地となることをめざしています。



食育推進プログラムの構築

子どもの発達・成長過程をみとおす食育の実践と教育

社会の激変によって、食のあり方を取り巻く環境は大きく変化しています。このプログラムの目的は、① キャンパス内にある保育施設・幼稚園から大学までを活用して、子どもの発達・成長過程をみとおす食育の実践と、その評価・研究をおこない、日本の食育のリーダーとなる栄養教諭を輩出すること、② 栄養教諭養成のための教育プログラム、さらには、“生きる力”を身につける総合教育としての食育プログラムを構築すること、③ 食育プログラムをPTAや学外に向けて実践し、その社会貢献をつうじて食育教育・研究の拠点となること、です。



21世紀COEプログラム

ジェンダー研究のフロンティア

さまざまなジェンダーの現代的課題を、学際的でグローバルな視点から解明して、その成果をアジアから世界に向けて発信し、男女共同参画社会の形成をめざして活発な活動を展開しています。

URL: <http://www.igs.ocha.ac.jp/f-gens/>



誕生から死までの人間発達科学

誕生から死にいたるまでに人が遭遇する危機的状況を診断し、解決と克服の処方箋を導きだすために研究活動を進めてきました（2002-06年度）。

URL: http://www.hss.ocha.ac.jp/coehp/index_j.htm

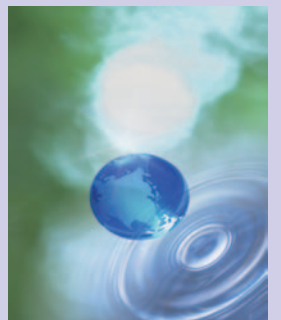


魅力ある大学院教育イニシアティブ

ユニバーサルマインドをもつ女性人材の育成

領域横断的な専門性を備え、国境・文化を越えた問題を共有できるマインドを備えた女性人材を育成するプログラムです。

URL: <http://www.dc.ocha.ac.jp/umind/>



生命情報学をつかいこなせる女性人材の育成

生命を広く学び、現在求められている新しい分野「生命情報学」を多分野に適用できる人材を育成します（2005-06年度）。

URL: <http://bioinfo.is.ocha.ac.jp/index.html>



<対話>と<深化>の次世代女性リーダーの育成

国際日本学専攻を中心として、国際的な学術経験・視野・人脈を在学時から培うことが出来るのが特徴です（2005-06年度）。

URL: <http://www.dc.ocha.ac.jp/ed-fwal/>

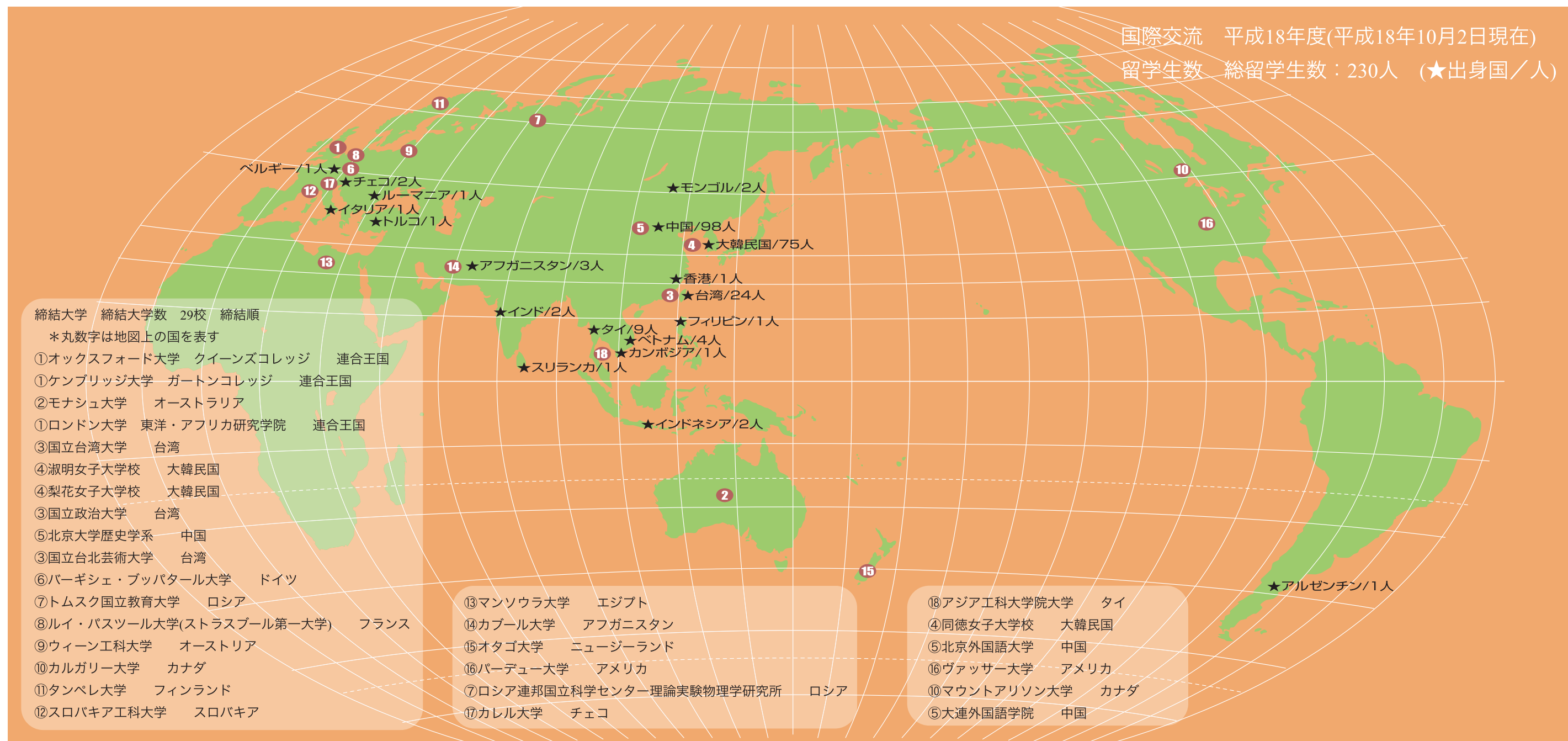


21世紀型お茶の水女子大学

研究プロジェクトの遂行

国際教育

お茶大から世界へつなぐ教育と研究



次々と世界の大学と協定を結んでいます

昨年は、ヴァッサー大学（米国）、マウントアリソン大学（カナダ）、大連外国語学院（中国）との大学間協定が実現しました。その結果、たとえばヴァッサー大学の学生たちが本学で約2カ月間、日本語や日本文化を学び、本学の学生たちと交流しました。秋には本学の大学院生たちがヴァッサー大学に滞在して日本文化のゼミに参加し、研究発表をおこないました。

また、さまざまな研究・教育プロジェクトが主催して国際会議が開かれ、教員だけでなく、学生も企画運営に参加し、発表をおこなっています。



国際教育

お茶大から世界へつなぐ教育と研究

学生生活サポート

数多くの奨学金制度

女性の自立は学生時代から始まります。本学では数多くの奨学金制度を整備して、自分の力で勉学に励もうとする女性たちを応援しています。また「いずみナーサリー」など、環境面の支援も充実しています。

本学独自の奨学金一覧 (平成19年4月現在)

基金の名称	授与対象者	金額	備 考
入学時成績優秀奨学金	入学時に特に成績が優秀であると認められた者	500,000	全学部 平成17年度新設
育児支援奨学金	学部生及び大学院生で本学が設置する保育所を利用する者	保育料の半額	全学部、大学院 平成17年度新設
保井・黒田奨学基金	自然科学関係の研究に従事しその成績顕著な者	30,000	理学部
被服学奨学基金	被服学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000	生活科学部
食物学奨学基金	食物学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000	生活科学部
家庭経営学奨学基金	家庭経営学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000	生活科学部
大学院研究科奨学基金	本学大学院博士後期課程において研究に従事し、その成績顕著な者とする。	70,000 200,000	大学院博士 後期課程
池田摩耶子記念奨学基金	1, 本学大学院において国際的な研究に従事し、その成績顕著な者	100,000	大学院 私費留学生
池田重記念奨学基金	2, 学部、大学院に私費で在学する外国人留学生で、その成績顕著な者	100,000	大学院 私費留学生
湯浅年子記念特別研究員奨学基金	本学出身者又は在学する学生で自然科学関係の研究に従事しその成績顕著な者	250,000	理学部
数学奨学基金	本学出身者又は本学大学院博士前期課程及び学部に進学する者で、数学の成績顕著な者とする。	100,000	理学部
生物学優秀学生賞奨学基金	本学学部及び大学院博士前期課程に進学する者で、生物学の成績顕著な者とする。	20,000	理学部
大学院進学桜蔭会研究助成基金	本学学部を卒業し、大学院博士前期課程に進学する学生に対する研究への助成	200,000	大学院 平成18年度新設
桜蔭会奨学金	各学部より推薦された3年生に対して桜蔭会から奨学金	100,000	各学部より4名

奨学生数 (平成19年1月時点)

区 分		在学生徒数	日本学生 支援機構	本学独自の 奨学金	奨学生数	比率
学 部	文教育学部	983	283	3	286	29.1%
	理学部	594	143	9	152	25.6%
	生活科学部	594	163	11	174	29.3%
	小計	2,171	589	23	612	28.2%
大 学 院	人間文化研究科(前期)	552	150	4	154	27.9%
	人間文化研究科(後期)	512	83	10	93	18.2%
	小計	1,064	233	14	247	23.2%
計		3,235	822	37	859	26.6%

「育児しながら研究成果も上げられる雇用環境モデル」が多くのメディアに着目されました。インタビューを受けた理学部助手の矢島知子さん(35)は、支援効果を次のように語っています——「ほとんどゼロだった自分の実験のための時間を確保できるようになりました。本当に助かっています」。



本学には二つの学生寮があります。板橋区の国際学生宿舎と、大学から徒歩3分の小石川寮です。国際学生宿舎は、日本人学生と留学生が同じ建物に住んで、日常的なふれあいをとおして互いに助けあい、交流して、国際的視野を身につけています。小石川寮は大学4年生と大学院生が主たる住人で、大学に近く、研究の利便性が強いです。どちらも個室。自分一人の時間をもちながら、多くの友人を作れる場所です。

学生生活サポート

数多くの奨学金制度

受賞者一覧

4月

森郁恵さん(理学部生物学科卒業生)、猿橋賞受賞

5月

細矢治夫本学名誉教授、日本化学会化学教育賞受賞

河野貴代美客員教授、シモンズ大学大学院アラムナイより「キャリア大賞」受賞

前田百合香さん(生活科学部生活工学講座卒業生)、(社)空気調和・衛生工学会振興賞・学生賞受賞

大山喜冴さん、辻田眸さん、豊田真智子さん(大学院数理・情報科学専攻在籍)、(社)情報処理学会全国大会「学生奨励賞」受賞

根本心一教授(理学部生物学科)、日本動物学会賞受賞

7月

永井美鈴さん(大学院人間発達科学専攻在籍)、学校保健学会「奨励賞」を受賞

8月

舞踊教育学コース、神戸コンクール「奨励賞」受賞

森悠紀さん(理学部情報科学科卒業生)の卒業研究、アメリカ計算機学会のStudent Research Competition Grand Finalsで、第一位受賞

9月

大神優子さん(大学院人間発達科学専攻在籍)、日本磁気共鳴医学会「学術奨励賞」を受賞

10月

田中辰明本学名誉教授、ドイツ技術者協会(VDI)のヘルマン・リーチェル荣誉メダル受賞
本学、赤十字金色有功章受賞

12月

天野知香助教授、西洋美術振興財団賞「学術賞」受賞

岸野麻衣さん(大学院人間発達科学専攻在籍)、日本教育心理学会「優秀論文賞」受賞

鈴木禎宏助教授、「サントリー学芸賞」「ジャポニスム学会賞」W受賞

曾根博仁助教授、「井村臨床研究奨励賞」受賞

松井とし教頭(附属幼稚園)、教育者賞表彰

1月

渡邊千明さん(大学院数理・情報科学専攻在籍)、国際的な賞を2つ受賞

2月

吉岡晶子教諭(附属幼稚園)、文部科学大臣優秀教員表彰

3月

山澤舞子さん(理学部情報科学科在籍)、辻田眸さん(大学院数理・情報科学専攻在籍)、(社)情報処理学会全国大会で「学生奨励賞」受賞

増永良文教授(理学部情報科学科)、(財)船井情報科学振興財団「平成18年度船井情報科学振興賞」受賞

お茶大グッズの新ライン

学生からのアイデアも満載

お茶大ブランドのブレンドティー&スイーツ

喜び・楽しみ・癒し・安心感—新たな「食の第四機能」の発信

「食」の機能は、栄養、おいしさ、生体調節だけではない！「喜び、楽しみ、癒し、安心感」という第四の機能があると語る学生たち。彼女らの手によって、お茶大ブランドのブレンドティーが誕生しました。

仕掛け人は「食」を研究するサークル「Ochas」の皆さん。なんと数ヶ月の間に新商品の開発や販売ルートの確立まで達成してしまいました。現在スイーツやペルシャハーブティーを使った新商品も開発中だとか。



「入学式でも販売します」

限定販売のためチェックはお早めに！



メンバーの一人に話を聞いてみると、『今後も、皆さんに喜んでいただける商品開発に取り組んでいきたい。卒業したらパティシエになりたいと考えていたが、今は管理栄養士を目標に大学院へ進学して「食や栄養に関する研究」を続けたい。』とやる気満々の様子。今後の展開が楽しみです。

なお、入学式では学生達によるお茶の販売が行われます。数に限りがありますのでチェックはお早めに！

このほか、お茶大グッズには本学所蔵の貴重資料である、武村耕靄筆「幼稚保育図」を配したコースター兼写真立て、「ミキモト」とのコラボレーションによって作られたブックマーカーや時計などがあります。詳細は大学ホームページでご覧いただけます。



イベントカレンダー

2007年度

- 4月6日 入学式
- 4月6日 新入生オリエンテーション (～11日)
- 4月7日 第1回TOEIC試験
- 4月7日 入学式 (附属小・中・高)
- 4月10日 附属幼稚園入園式
- 4月10日 新入生セミナー (～11日)
- 4月12日 前学期授業開始
- 4月21日 大学院説明会 (オープンキャンパス)
- 5月15日 名誉教授懇談会
- 5月31日 開学記念日
- 5月31日 ホームカミングデー
- 6月4日 理学部編入学入試願書受付 (～8日)
- 6月27日 理学部編入学試験 (～28日)
- 7月 5日 理学部編入学入試合格発表
- 7月15日 大学見学会 (オープンキャンパス) 開催 (～16日)
- 7月24日 博士前期課程9月入試願書受付 (～27日)
- 7月24日 前学期末試験 (～30日)
- 7月24日 補講日 (～8月2日)
- 8月3日 夏期休業始
- 8月7日 博士後期課程9月入試願書受付 (～10日)
- 8月13日 夏季一斉休業 (～15日)
- 8月23日 博士前期課程9月入試 (～24日)
- 9月3日 博士前期課程合格発表
- 9月6日 博士後期課程9月入試 (～7日)
- 9月9日 夏期休業終
- 9月10日 前学期末試験・補講日 (～15日)
- 9月14日 博士後期課程合格発表
- 9月16日 夏期休業始
- 9月28日 9月卒業式
- 9月30日 夏期休業終
- 10月1日 10月入学式
- 10月1日 後期授業開始
- 10月1日 文教育学部・生活科学部編入学試験願書受付 (～5日)
- 10月17日 文教育学部・生活科学部編入1次入試
- 10月26日 帰国子女入試願書受付 (～11月7日)
- 11月1日 推薦入試願書受付 (～7日)
- 11月2日 文教育学部・生活科学部編入2次入試
- 11月6日 奨学金授与式
- 11月8日 文教育学部・生活科学部編入学試験合格発表
- 11月10日 微音祭 (～11日)
- 11月22日 永年勤続表彰式
- 11月29日 創立記念日
- 11月29日 文教育学部・生活科学部推薦入試・帰国子女入試 (第1日目)
- 11月29日 理学部推薦入試・帰国子女入試
- 11月30日 文教育学部推薦入試・帰国子女入試 (第2日目)
- 12月6日 推薦入試合格発表・帰国子女入試合格発表
- 12月12日 私費外国人入試願書受付 (～25日)
- 12月24日 冬期休業始
- 12月25日 博士前期課程2月入試願書受付 (～28日)
- 1月7日 新年賀詞交歓会
- 1月7日 冬期休業終
- 1月15日 博士後期課程3月入試願書受付 (～18日)
- 1月19日 大学入試センター試験 (～20日)
- 1月26日 大学入試センター試験 (追試) (～27日)
- 1月28日 学部願書受付 (～2月6日)
- 1月31日 博士前期課程入試 (～2月1日)
- 2月4日 後学期末試験・補講日 (～8日)
- 2月12日 博士前期課程合格発表
- 2月12日 第2回TOEIC試験
- 2月25日 学部入試 (前期) (～26日)
- 3月4日 博士後期課程入試 (～6日)
- 3月8日 学部入試 (前期) 合格発表
- 3月11日 博士後期課程合格発表
- 3月12日 学部入試 (後期)
- 3月12日 全学送別会
- 3月14日 附属幼稚園卒園式
- 3月17日 附属小学校卒業式
- 3月18日 附属中学校卒業式
- 3月19日 附属高等学校卒業式
- 3月20日 学部入試 (後期) 合格発表
- 3月21日 永年勤続表彰式
- 3月24日 卒業式



イベント予告

大学院オープンキャンパス

お茶大の大学院は、この4月から新たに模様替えをして再出発しました。新しい大学院がどんなところなのか、どんな研究ができるのかについて説明します。

13時30分から14時10分までは、学長のお話を始めとする大学院全体の紹介。そしてその後の時間では、博士前期(修士)課程のコース毎に分かれて、それぞれの専門分野についての細かな案内と説明があります。

博士後期課程への進学希望者には、めざす専門分野の教員との面談も手配されます。また受験、学生生活、留学生等についての相談室も開設されます。

将来大学院へ進もうと考えている皆さんには、大学院を知る絶好の機会になるに違いありません。

日時：平成19年4月21日（土）13:30～17:00
場所：お茶の水女子大学講堂（微生物堂）
内容：(1)新しい大学院の紹介
(2)専門研究指導の紹介、各専攻コース別説明
(3)受験、学生生活、留学生などの相談コーナー



問い合わせ先：広報チーム info@cc.ocha.ac.jp 大学ホームページ：http://www.ocha.ac.jp/

Home Coming Day

5月31日(木)10時より、全学イベント「ホームカミングデー」が開催されます。卒業生・在校生・教職員が一堂に会し、お茶大spiritと絆を確かめ合おう、という企画です。卒業された方々、ぜひみなさまがたの後輩に会いに来てください。

また新1年生にとっては、「お茶大ってどんなところ？」という疑問に答えてくれる、そして2年生以上の学生には、年上の先輩たちとの在学年を超えた絆が再確認されるイベントとなることでしょう。

日時：平成19年5月31日（木）10:00～
場所：お茶の水女子大学
内容：(1)各学部開催の講演会
(2)図書室公開
(3)キャンパスツアー
(4)微生物堂にて記念式典（14:00～）



問い合わせ先：広報チーム info@cc.ocha.ac.jp 大学ホームページ：http://www.ocha.ac.jp/

国際日本学シンポジウム

日時：7月7日～8日
場所：理学部3号館
内容：テーマは以下二つ。
「双方向のジャポニズム」
「ヨーロッパにおける日本美術史の成立と発展」
主催：国際日本学研究センター

日韓女性歴史表象シンポジウム（仮）

日時：8月22日～23日
場所：未定（決定次第お知らせします）
内容：テーマは以下四つ。
「東アジアにおけるナショナリズムとモダニズム」
「女性文化の変遷」
「＜トランス＞の可能性」
「戦争言説とジェンダー」
主催：「ジェンダー研究のフロンティア」（21世紀COE）
共催：梨花女子大学（韓国）

平成18年度卒業式

卒業証書・学位授与式によせて 学長告辞

本学の学部での4年間、勉学に励まれ、今日ここにめでたく学士の課程を修了した皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆様をここまで支えてこられたご家族をはじめ、ご臨席下さいました来賓の方々、本学をご支援くださいました多くの方々に、深くお礼を申し上げますとともに、514名の卒業生の新しい出発を前にして、この喜びを分かち合いたいと思います。

私も、45年前に同じように徽音堂から旅立ちました。早く飛び立っていきたくて、卒業式のことはあまりよく覚えておりません。ただ、この講堂に座っていたこと、当時は久米学長であったことだけは覚えております。その後、いろいろな大学で学んだり、教えたりして、今ここで皆さんを送り出すという運命を、この大学との深いご縁と思いながらここに立っております。

4年前に、お茶の水女子大学に入学された時と同じこの徽音堂で、本日、皆さんは卒業の日を迎えました。この4年間で、皆さん一人ひとりにとって、どのような時間であったか、そのことを問いながら、あるいは卒業後の生き方や明日からの生活への期待に胸を弾ませて、ここにお座りであろうかと推察いたします。

この4年間、本学は大きな変革の波をくぐりました。皆さんが入学された時、本学は国立大学お茶の水女子大学でしたが、3年前、他の国立大学と同様に法人化され、国立大学法人お茶の水女子大学が現在の名称です。国立大学法人になったからといって、皆さんにとって、ほとんど変化していないと感じられるでしょう。しかし、皆さんは、法人化前のお茶の水女子大学に入学した、最後の学生ということになります。歴史的に希少価値をもつあなた方の卒業にあたり、学長からのメッセージを贈りたいと思います。

まず、4年にわたる大学本館とこの徽音堂の改修が昨年完了しました。本学が現在のJR御茶ノ水駅の近くから、ここ大塚の地に移転した74年前、関東大震災による校舎崩壊の教訓を生かして、強固なコンクリートの基礎の上に校舎を築きました。その基礎をそのまま壊さず使い、できるだけ建設当時の様態を保存する形で改修が行われました。本日は、改修が完成したこの徽音堂での最初の卒業式となりました。

一昨年、創立130年を迎えたことを記念して、卒業生をはじめ本学を支援してくださる多くの方からいただきましたご寄付により、まず徽音堂の空調設備が完成しました。これを、本学自らが努力した結果として文部科学省に高く評価していただき、徽音堂に改修工事の予算をつけていただくことができたのです。また、今日のピアノ演奏は、美しい音を響かせてくれました。美しい音を奏でる講堂という意味をもつ、この「徽音堂」の名称にふさわしいピアノは、いただきましたご寄付のなかから、新しくこの1月に購入することができました。すばらしい音色を放つこのスタインウェイが、皆さんの卒業を祝ってくれています。法人化以前は、国立大学はご寄付をいただくことはできませんでしたが、法人化で変わった大学の新しい姿の一端です。





本学の創立は1875年、明治8年です。いまから132年前になります。本学の前身は、東京女子師範学校として設立されました。我が国で最初に、女性に高等教育の機会を与え、教師を養成するために、日本の政府が創った師範学校です。東京大学が今年創立130周年を迎えましたので、それより2年だけ早い創立です。本学の卒業生には、世の中の指導的な立場で活躍した方、現在も活躍している方たちがたくさんいます。特に、教職について活躍された方は、全国の隅々にまでわたっています。

優れた女性リーダーを育む校風と伝統とは、大学が女性に開放され、共学の大学が生まれた昭和24年の後も、現在まで絶えることなく続いています。日本の科学や学術の方向を決めていく文部科学省の科学技術・学術審議会には30名の会員がおり、その内の約30%に当たる10名は女性です。とても興味深いことに、その半数近くが本学の出身者です。これは驚くほどの大きな比率です。多くの共学の大学を卒業した女性の圧倒的な多数を考えれば、本学がいかに多くの優れた研究者を輩出してきたか、そのことを明白に示しています。

87の国立大学法人の中で、本学と奈良女子大学が2つの女子大学として存在しています。私学にも多くの女子大学が存在しています。一方、アメリカの東部には名門の女子大学があります。かつては、セブン・シスターズと呼ばれた7つの名門女子大学がありました。しかし、バツサー・カレッジが共学になり、ラドクリフ・カレッジも学生がハーバードの学生を兼ねるようになって、事実上共学になり、現在はファイブ・シスターズとなった女子大学が、全寮制の少人数教育を守りながら、今も、入学時の高い競争率のもと、優れた女性を世に送り出しています。
(次ページへ)

平成18年度卒業式
卒業証書・学位授与式によせて 学長告辞

平成18年度卒業式

卒業証書・学位授与式によせて 学長告辞

(前ページより)

アメリカで、初の女性大統領候補となる可能性がささやかれているヒラリー・ロダム・クリントン上院議員とコンドリーザ・ライス国務長官について、ふれてみたいと思います。ライスは15歳で大学に入りました。ヒラリーは知事夫人でありながら「全米100人の弁護士」に選ばれており、二人とも傑出した秀才であることは間違いのないのですが、二人の人間的な個性を興味深く思います。

ヒラリー・クリントンは、ファイブ・シスターズの一つであるウェルズリーカレッジの出身であり、女性の仲間と居ることが多かったのです。ウェルズリーでは寄宿舎生活を通して、一生続く友人を得ました。女子大学はリーダーシップを発揮するのには最高の環境でした。それに対して、ライスは男性の中の紅一点で居ることがほとんどでした。二人とも50歳代、権力に近い位置にいるという共通点があります。



しかし、二人のタイプは正反対です。ライスは無駄のない最短距離のキャリアを走っているのに対し、ヒラリーは回り道をしながらキャリアを積み、いろいろな状況での経験を生かしながら大きく成長しています。ライスは障害をさける直感が鋭く、ヒラリーは敵と向かい合いながら力をつけていきました。ライスは物事の潮時をみるセンスが抜群であり、周囲への心遣いが完璧ともいわれています。ヒラリーは何度も落ち込み、引きこもりながらも、再生する力がつよく、その度に大きく成長していきました。

ヒラリーとライスのキャリアの築き方、人間関係のネットワーク形成のしかたは、それぞれ大変魅力に富んでいます。同時代に生きる私たちにとって、「これは私に近い考えだ」、「私はヒラリータイプだ」、などと、較べてみることもできます。この二人は、皆さんのこれからのキャリア形成の参考になると思います。これらは、岸本裕紀子さんが書かれた新書『ヒラリーとライス アメリカを動かす女たちの素顔』に詳しく描かれています。

この本を読んで私が大変感激したことがあります。二人の両親に共通していること、それは娘に教育の重要性を教えたことです。ヒラリーは「教育を受ければ自分たちの環境をいくらかは支配出来るようになる」と両親から聞かされていたといいます。ライスの両親も「あなたには教育で何も欠けているものがない、と白人が思った時、自分自身の環境がコントロールできるようになるわ」と、同じことをいっています。なんと、すばらしい両親でしょう。人を育てるのは、教育です。教育のもつ偉大な力が、今、日本では見過ごされているように感じます。「教育を受けることで、自分の環境を変えていくことができる」、なんと力強い言葉でしょう。



皆さんは、新しい人生のスタートに立っています。約半数の人たちは大学院に進み、半数の人は社会に出て行くことでしょう。本学は女子大学として、ヒラリーが学んだ場と非常に似た環境にあります。本学は女性のリーダーを育成することを目標に掲げております。リーダーというのはもちろん様々な場面でのリーダーです。大統領になるのは極々限られた人ですが、地域の活動や自分が属する職場など、いろいろなところで周囲を変えていける、その元になるのが教育です。

皆さんは、このお茶の水女子大学の少人数教育の中で、女性同士が切磋琢磨し、4年間たくさんのものを身につけてきました。私自身、卒業生として、本学の行き届いた教育は生涯に及ぶ貴重な財産であったと思いますし、また、これからもその財産を生かしていきたいと思っています。大学は、先生方の目が行き届き、手塩にかけて皆さんたちを育てくださった、そういう場でございます。皆さんも、本学で受けた教育はどこの大学にも勝る素晴らしい教育であると誇りをもって巣立ってください。そして、もし何かに迷ったときには、本学はいつでも皆さんに開かれています。また、大学院に入って学ぼうと思われたときはいつでも喜んでお迎えいたします。

先ほども申し上げましたように、本学には長い伝統があり、卒業生がたくさん世の中で活躍しております。日本国内のどこでも、そして、世界の主な都市でしたら探せばきっと、本学の卒業生がおられます。このネットワーク、大勢の卒業生、仲間、同級生の、ネットワークを大切に、本学で受けたさまざまな勉学をご自分の力として、自分の周りを変えていく、そういう形でこれからの新しい生活に踏み出していただきたいと思います。そして、またいつの日か卒業生として、後輩を励ましに本学を訪れて下さい。

ご卒業本当におめでとうございます。(了)

平成18年度卒業式
卒業証書・学位授与式によせて 学長告辞

平成18年度卒業式

大学院学位授与式によせて 学長告辞



本学大学院研究科修士課程での2年間、あるいは博士課程での3年間前後、勉学に励まれ、または博士論文を提出され、今日ここにめでたく修士または博士の学位を授与された皆さん、おめでとうございます。

皆さんをここまで支えてこられたご家族をはじめ、ご臨席下さいました来賓の方々、ご支援くださいました多くの方々に、深くお礼を申し上げますとともに、皆さんの新しい出発を前にして、この喜びを分かちあいたいと思います。

日本の研究者に占める女性の割合は11.9%で、先進国の中で非常に低い値です。第3期科学技術基本計画が昨年から始まりましたが、その中に、5年間で自然科学分野の女性研究者の割合を25%にすると書かれています。本学の女性教員の割合は40%です。国立大学の中では、最大の比率です。50%にまで増やす責任が組織の長にあると考え、努力を続けております。

国際的な女性科学者である本学の卒業生のことを少し紹介させていただきます。私が尊敬する科学者湯浅年子先生です。本学の前身である東京女子高等師範学校の卒業生であり、理学部で物理学の教育もご担当されました。原子核物理学者として国際的に活躍された日本で初めての女性の研究者です。

湯浅年子先生は第二次世界大戦が勃発した頃、ご自分の研究をジョリオ・キュリー先生のもとで続けたいという強い決意をもってフランスに渡りました。当時のパリは、研究も思うにまかせない状況でしたが、それでも戦局がいよいよ激しくなるまで研究を続けられ、ついには大変な思いをしてシベリア経由で日本に帰られました。

本学でしばらく教鞭を執られましたが、戦後の日本の状況ではなかなか思い通りの研究ができず、その後再度フランスに渡られて、フランスでご研究を続けながら生涯を終えられました。湯浅年子先生の残された資料は本学にたくさんございまして、湯浅先生のご生涯を研究している卒業生もいます。湯浅先生は教養が深く、ご研究の傍ら短歌を詠まれ、また、パリを訪れる日本の先生方は、心からおもてなしを受け、お世話いただいたと、いうお話をいろいろな方々から聞いております。

湯浅先生の日記の一節をご紹介します。これは1965年1月1日（朝4時半）の日記です。今年こそは守りたいと、5つの項目をノートに書いておられます。

1番目。本質的なことのみ考え、本質的なことのみ実行するようにすること。

研究をするということは厳しいものです。物事の本質を考え、そして本当に大事なことだけを実行する。私は、ここに書かれたことに大変感銘を受けます。

2番目。余命のある限りを、出来るだけ仕事に尽くして、少なくとも何かひとつ仕事をふっきるようにすること。

研究には、ここで終わり、ということはありません。ある程度解決すると、また次に新しく未知の問題が広がってきます。しかし、これで一つのことが終わった、片が付いた、とするのも大事なことです。いくつもやりたいことを抱えていないで、一つに集中し、ある程度自分の納得のいくことができた、としたい気持ちがよく分かります。「ふっきるようにすること」というのはこういったことかと思えます。

3番目。生活も仕事も芸術的に、すなわち趣味をもってするようにして、できるだけ美しく行なうこと。

湯浅先生はたくさんの短歌を詠み、たくさんの手紙を書いています。本学の卒業生の方の中にも湯浅先生からいただいた手紙を大事に持っていらっしゃる方も大勢います。歌集もあり、いろいろなご本もあります。ご興味のある方は是非ご覧頂きたいと思えます。

4番目。怠惰をいましめ、老化を防ぐこと。

5番目。人の意見を良く考えること。

湯浅先生は55歳のときにこの日記をお書きになっています。この日記からお人柄が偲ばれ、若い方がお聞きになっても、すばらしい決意だと思われることでしょう。

本日、博士号を授与された方の中には、ライフスタイルを考慮した本学の大学院の教育のシステムを生かし、50歳代で入学され、60歳代で今日を迎えられた方がおられます。すばらしいことです。何歳になっても勉強したいという熱意を、今日ここに拝見することができてうれしく思います。

本学の課程を修了されて学位を授与された方々、本学で学んだことをどうぞ誇りにして、日本で、あるいは国際的な場で活躍ください。来年度には、「主婦を研究の世界に呼び戻そう」というプログラムをスタートさせます。本学には、主婦でありながら学んでいる学部生、大学院生がたくさんおります。このプログラムにもご注目ください。

学ぶことは生涯を通じて為されることです。これを忘れないで頂きたいと思えます。 (了)

平成18年度卒業式
大学院学位授与式によせて 学長告辞

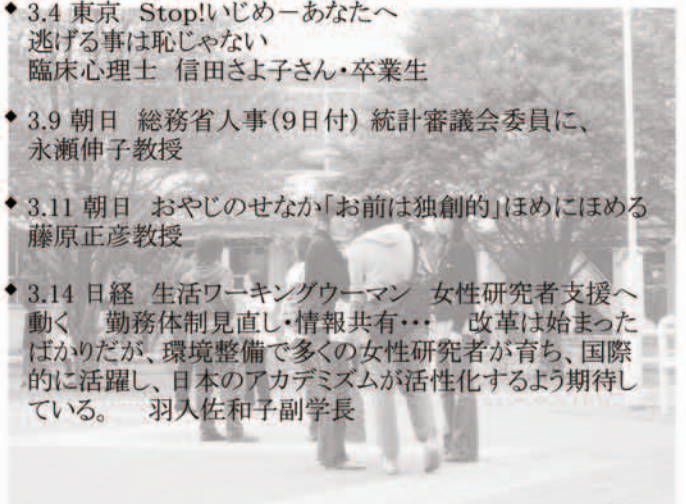
メディア報道記録

2006年度

- ◆ 4.2 読売 変わる大学 08年度から附属高生の推薦入試導入に「視野を広げる活動にあてられる」本田和子前学長
- ◆ 4.3 朝日 きょうの論点 国家の品格とは何か「惻隠の情」を広めよう 藤原正彦教授
- ◆ 4月 日経 毎週連載「まなび再考」耳塚寛明教授「青春の道標」土屋賢二教授
- ◆ 4.5 読売 対人力を磨く「研修」受けた先輩相談に乗る新入生に「サポーター」
- ◆ 4.15 東京 教育基本改正案「愛国心」今すぐ廃語に著書「国家の品格」自民公明格好のテキスト「祖国愛」の考えを提唱 藤原正彦教授
- ◆ 4.17 産経 知の先端 地震研究の進展と防災対策の推進に貢献している 石田瑞穂さん・卒業生
- ◆ 4.21 毎日 本の現場 病を抱え、サイエンスライターに「心訳・般若心経」シリーズが「想定外」の人気柳澤桂子さん・卒業生
- ◆ 4.26 読売・朝日・毎日 5.4 産経 第26回猿橋賞受賞 森郁恵さん・卒業生
- ◆ 4.29 東京 堤精二名誉教授 春の叙勲 中綏章
- ◆ 4.30 読売 こころを育む総合フォーラム パパとママの信頼大事 菅原ますみ助教授
- ◆ 5.12 東京 藤原正彦教授著書「国家の品格」202万部発行 新書では最速の記録
- ◆ 5.15 毎日 小学校の英語必修化「優先順位はずっと下『英語で国際人』は、うそ」藤原正彦教授
- ◆ 5.21 朝日 教育と格差社会について「初めから不公平な競争」耳塚寛明教授
- ◆ 5.28 読売 学校週5日制の再考を提言「卓越した能力のある子供を伸ばそうという発想も持つべき」耳塚寛明教授
- ◆ 5.30 朝日 小6約千人「職業観」調査「夢いっぱいの結果 現実味を帯びるかは家庭環境によるところが大きい」耳塚寛明教授 他、研究班
- ◆ 6.13 毎日 79歳で博士号 草木に魅せられ分類研究 大川ち津るさん・高等師範学校卒業生
- ◆ 6.14 毎日 女性研究者支援研究活動 育児と両立へ「実験」いずみナーサリーを紹介
- ◆ 6.23 毎日 戦後60年私の原点「生きる力」は引き揚げ体験 藤原正彦教授
- ◆ 6.28 朝日 異議あり匿名社会 個人を守り社会を壊す 藤原正彦教授
- ◆ 7.5 日刊工業 ゴマの「セサミン」血糖値引き下げ効果 藤原葉子助教授
- ◆ 7.6 読売 教育ルネサンス 食育を担う 食卓で養う対話力 室田洋子さん・卒業生
- ◆ 7.10 日本教育新聞 内田伸子教授監修の書籍「ことばの生まれ育つ教室」を紹介
- ◆ 7.11 朝日 歴史認識「靖国編」を語る 波平恵美子教授
- ◆ 7.13 日経 魅力ある大学院教育イニシアティブ
- ◆ 7.17 日経 公共性を育む授業づくりで「大学一附属連携フォーラム」
- ◆ 7.25 朝日 ぱーそん「量子暗号」新方式
- ◆ 7.31 朝日 「かがく批評室」市民と科学の対話 科学技術コミュニケーション実践活動や教育プログラムの実施
- ◆ 8.19 東京 読者発「異彩面談」土屋美和子さん・卒業生
- ◆ 9.3 読売 徳井淑子教授の著書「色で読む中世ヨーロッパ」を紹介
- ◆ 9.6 毎日 新・宰相考 06総裁選を問う教育、活字文化復興を 藤原正彦教授
- ◆ 9.21 読売 支え合って子育て 武石恵美子さん・博士終了
- ◆ 9.24 読売ウィークリー 再考の授業
- ◆ 10.1 日経 あとがきのあと「恋する文豪」男性の恋愛観名作に探る 柴門ふみさん・卒業生
- ◆ 10.5 日刊工業 産業技術総合開発機構(NEDO) 今年度の大学発事業創出実用化研究開発事業
- ◆ 10.10 日経 大学の子育て支援 教職員らに保育園・長時間勤務にメス
- ◆ 10.11 富山 昭憲皇太后より下賜された校歌を銘板をはめ込んだ歌碑を製作、寄贈 藤原正彦教授
- ◆ 10.15 東京 不妊夫婦にそそぐ愛情と根性について語る くらだゆかこ大学院講師
- ◆ 10.21 朝日 東大・朝日「情報革命」シンポジウムに参加
- ◆ 10.23 日経 キャリアの軌跡 自らに変化 課し続ける 本田桂子さん・卒業生
- ◆ 10.23 読売 附属中学2年生 川島里佳子さん「第56回全国小・中学校作文」にて最優秀にあたる、都教育委員会賞に選ばれる
- ◆ 10.28 読売 教育ルネサンス アフガニスタン支援「途上国の問題が、実際の人の問題として感じられることが重要。平和の価値をあらためて感じ、勉学に専念できるありがたさを知って、学習意欲が変わってくる」三浦徹教授

- ◆ 10.30 日経 不登校の子供支援について
「まず“つながり”確保。学ぶ機会乏しく関係者が連携を」 酒井朗教授
- ◆ 10.30 読売 高校履修漏れの件で救済策に理解を示す
「ゆとり教育が学力低下を招いている。教育の抜本改革が必要」 藤原正彦教授
- ◆ 10.31 読売 郷通子学長 女性研究者支援活動に関し、「支援があれば継続できる」 理学部助手 矢島知子さん
「育児しながら研究成果も上げられる雇用環境の実現、効果を実感」
- ◆ 11.2 東京 一貫した行政方針が必要
受験過剰意識の弊害 耳塚寛明教授
- ◆ 11.7 日刊工業 進む教育改革 文科省プログラム採択校にみる家庭と研究両立を目指す
情報選択、独自の発送へ
- ◆ 11.9 読売 なぜ？必修逃れ 教育の質 保つ仕組みを「核」を明確に成果を検証 耳塚寛明教授
- ◆ 11.9 東京 第22回都高等学校新聞セミナー
附属高校、最優秀賞に選ばれる
- ◆ 11.18 読売 08年度入試から「過去問」
出題 17大学が相互利用
- ◆ 11.26 読売 郷通子学長 オンの才人、オフの達人
「俳句は日々の生活に豊かさをもたらしてくれる日本文化」
- ◆ 11.27 毎日 私のスタイル 若い女性のやる気を引き出したい雨宮弘子さん・卒業生
- ◆ 12.2 朝日 郷通子学長
東大・朝日新聞社共催フォーラム
情報革命と人類の未来 「個人を閉じ込めぬよう」
- ◆ 12.2 毎日 「ユーキャン新語・流行語大賞」
「品格」が選ばれる
「国家の品格」の著者 藤原正彦教授
- 12.5 日経 ニッポンの教育 学ばない症候群
「知識や教養を深めず、漫然と社会人になる恐れがある」
耳塚寛明教授
- ◆ 12.6 日経 ニッポンの教育 モラル消えた学校「価値観や家族のあり方の多様化が背景にある。家族の絆を強調しても対応できない」 小玉重夫教授
- ◆ 12.13 日刊工業 郷通子学長 有識者議員に内定
- ◆ 12.15 読売 公立小中高校での学力調査で
「勉強時間の格差が広がる。成績上位層なお受験競争」
耳塚寛明教授
- ◆ 12.16 Corriere della Sera(イタリア 2006年度第51号 pp.109-111, Milano)
“Io Donna”に本学(「魅力ある大学院教育」イニシアティブの「く対話と深化」の次世代女性リーダーの育成」プログラム)とイタリア文化会館との共催「日伊女性会議」が紹介された。
- ◆ 12.22 朝日 小中学生の理科離れを防ごうと北区と協定顕微鏡を持ち込み授業をサポート
宮本康司本学講師

- ◆ 12.24 日経 音楽と文化の座談会で、「声の力」「超自然」の世界と私たちをつなぐ 永原恵三教授
- ◆ 12.26 産経 ゲームによる子供達への影響に関し「買う前にルールを。リテラシー教育の必要性」
坂元章教授
- 平成 19 年 -
- ◆ 1.6 毎日 郷通子学長 総合科学技術会議議員に、
袖井孝子名誉教授、男女共同参画会議議員に
任命される。
- ◆ 1.7 産経 人類が誇れる文化を生んだ日本。
珠玉のような国家の再生は若い君たちの双肩にかかっている 藤原正彦教授
- ◆ 1.8 読売 お品書き 幼かった終戦時について語る。
「イチジク、郷愁まぶせば味わい。今は何でも手に入る時代だが殺伐としてきた。人間の幸福とは関係ない」
藤原正彦教授
- ◆ 1.10 毎日 入試最前線07 教育ルネサンス
過去問共有タブー破る 過去問題活用宣言
- ◆ 1.14 日経 人語り 「父」を書き継ぐ
父の後を汚すわけにはいかない 藤原正彦教授
- ◆ 1.16 朝日 郷通子学長「みどりの学術賞」
選考委員に任命される
- ◆ 1.24 朝日 学力テスト、昨年と同問題に関して「市教委が点検するのが当然。あまりにもお粗末」
耳塚寛明教授
- ◆ 2.3 朝日 新入生みんなにノートパソコン
無償貸与「受験生にアピール」
- ◆ 2.5 日刊工業 「科学技術コミュニケーター」
育成・活発化 理科離れ対策で学外に開かれた
活動の重要性を痛感する 千葉和義教授
- ◆ 2.16 東京 「人、街に生きる」 深い緑 多彩な人脈
藤原正彦教授
- ◆ 2.26 読売 成績優秀者に奨学金
- ◆ 3.4 東京 Stop!いじめーあなたへ
逃げる事は恥じゃない
臨床心理士 信田さよ子さん・卒業生
- ◆ 3.9 朝日 総務省人事(9日付) 統計審議会委員に、
永瀬伸子教授
- ◆ 3.11 朝日 おやじのせなか「お前は独創的」ほめにはほめる
藤原正彦教授
- ◆ 3.14 日経 生活ワーキングウーマン 女性研究者支援へ
動く 勤務体制見直し・情報共有… 改革は始まったばかりだが、環境整備で多くの女性研究者が育ち、国際的に活躍し、日本のアカデミズムが活性化するよう期待している。 羽入佐和子副学長



メディア報道記録

2006年度

大学構内に咲く花

二輪草（にりんそう）



キンポウゲ科の多年草。

4～5月頃、普通2本の長花柄を出して白い花をつける。

構内ではテニスコートの後ろ、護国寺側の土手2カ所に群生している。



お茶の水女子大学学報 第213号

▽発行 日： 2007年4月6日

▽発行： 国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚2-1-1（〒112-8610）

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail: ochamail@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www.ocha.ac.jp/>